

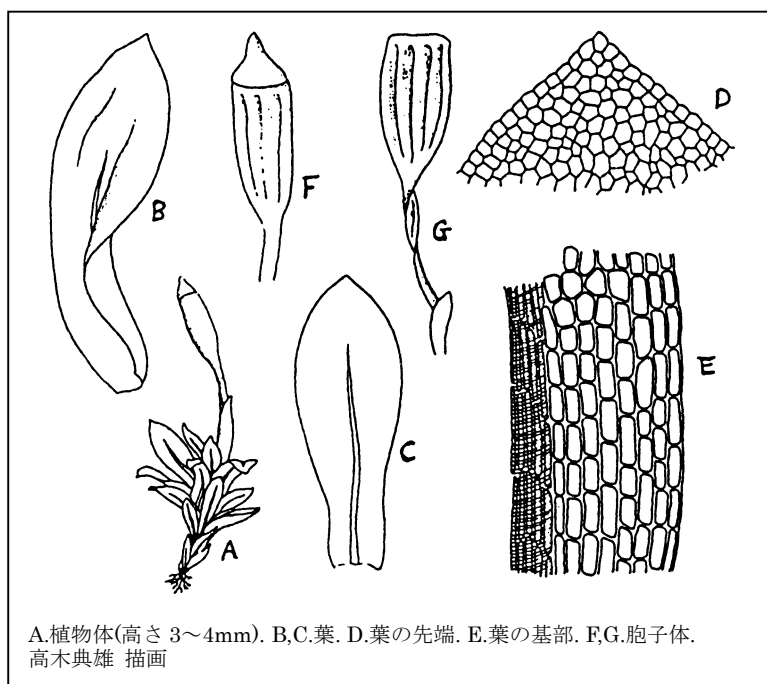
キブネゴケ *Rachithecium nipponicum* (Toyama) Wijk et Margad.

【評価理由】

日本固有の種で京都の貴船で発見され、新種として命名(1935)されたもので、和名も発見地の名に因んでいる。現在も稀産の種であり、着生母樹の多くがサクラ類の老木であるという変わった性質がある。県内での既知産地も、瀬戸市1ヶ所、新城市2ヶ所のわずか3ヶ所である。そのうちの瀬戸市と新城市鳳来寺山の2ヶ所から姿を消している。

【形態】

高さは3~4mmという小さな種である。主としてサクラの幹に着生、雌苞葉は鞘状になって蒴柄を包み、蒴はわずかに雌苞葉から顔を出している。蒴は直立し、縦ひだが著しい。蒴歯は欠如し、口環がよく発達する。



A.植物体(高さ3~4mm). B,C.葉. D.葉の先端. E.葉の基部. F,G.孢子体.
高木典雄 描画

【分布の概要】

【県内の分布】

新城市(旧鳳来町)の鳳来寺山参道入口と瀬戸市八王子町が既知産地であったが、これらの産地では消滅した。最近、同じく新城市(旧鳳来町)内の細川小学校校庭のソメイヨシノの樹幹に着生しているのが記録された。

【国内の分布】

現在までに知られた産地はタイプ標本産地の京都市貴船の他、大阪市内、広島県、愛知県、静岡県等のわずかな産地である。

【世界の分布】

日本固有種である。

【生育地の環境／生態的特性】

本種は樹幹着生の種であるが、採集者によって着生樹種が確認されている場合はすべてサクラ(主にソメイヨシノ)である。そのサクラも主として路傍や運動場など開放地のサクラであるのも特徴的である。

【現在の生育状況／減少の要因】

既知産地の一つであった新城市(旧鳳来町)鳳来寺山参道入口では消滅した。しかし、最近同じ新城市(旧鳳来町)の細川小学校校庭のサクラ(ソメイヨシノ)の樹幹で記録された。

【保全上の留意点】

樹幹着生の小型種なので乱獲される心配はないが、樹幹着生の種は、その生育を支えている母樹そのものが消滅すると着生種も消滅するため、母樹そのものの保護が重要である。また、新たな産地発見の可能性は残されているため、県内における新たな産地の発見が望まれる。

【特記事項】

今後、新たな産地を発見するためには、路傍や運動場など人里もしくは人里近くの開放地のサクラ(ソメイヨシノ)を中心として調査を進める必要がある。

【関連文献】

高木典雄・成田務, 2000. 姿を消したと思われる鳳来寺山蘚類の3種. 鳳来寺山自然科学博物館館報, 29: 6-7.

県内分布図

